



は せ が わ ま こと

◆診療科紹介 放射線診断科 長谷川 真

常勤医3名（放射線診断専門医、PET核医学認定医、核医学専門医、検診マンモグラフィー読影認定医）で、診療を行っています。守備範囲の広い科であり、高い専門性を維持し、3名ですべての業務を遂行するには、限界があります。昭和大学旗の台病院から、IVR専門医、検診マンモグラフィー読影認定医など、非常勤医師5名の協力を得て、増加し続ける、日常業務に対応しています。

CT、MRI、核医学検査、血管造影、一般X線撮影など、各種画像検査のマネージメント、造影剤など薬剤の注射、および読影レポートの作成が診療の中心です。IVR (interventional radiology) として腫瘍塞栓術はじめ経皮的治療（ドレナージなど）や経皮腫瘍生検などを行っています。

臨床各科との十分な連携のもとに検査、治療、生検を行っています。持参された他院の画像についても、依頼があれば、読影報告の作成を行なっています。画像診断に関するコンサルテーションを随時受け付けています。

他医療機関からの画像検査依頼には迅速に対応し、電話予約にて、日時を決定し、検査後、速やかに読影レポート作成を行い、返送しています。



中央 長谷川教授

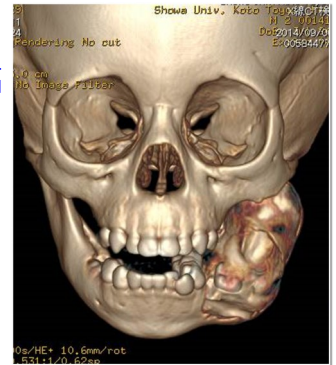


昭和大学江東豊洲病院

第16号のトピックス

- 診療科紹介
 - 放射線診断科—
 - 放射線治療科—
- 部門紹介
 - 感染管理室—

臨床放射線医学は 画像診断と放射線治療の2つの柱から成り立っています。最近の画像診断の進歩はめざましく、現在では臨床医学に無くてはならないものとなりました。幅広い分野について、臨床的知識のみならず放射線物理学や放射線生物学などの基礎的な知識も有する医学研究者および臨床専門医の育成を目標としています。



放射線診断科 業務実績 (2014年3月24日～2015年6月23日まで)

読影実績

	入院	外来	ドック	合計
CT	3,383人	10,633人	(3人)	14,016人
MRI	1,403人	5,620人	(20人)	6,423人
核医学	246人	446人		692人
マンモグラフィ	20人	615人		635人

	造影人数	造影率
CT	4,696人	33.5%
MRI	723人	11.3%

	紹介患者数	紹介率
CT	100人	0.8%
MRI	202人	3.1%

	紹介患者数	紹介率
胸部X線	182人	0.5%

※マンモグラフィはマンモトームおよび断層を含む

※造影率は全造影人数で算出

※CT、MRI、胸部X線の紹介患者数は放射線診断科で発生した検査依頼数

IVR実績

Angio(emboli,TACE,BRTO等)	58人
IVR(biopsy,ドレナージ)	28人

◆診療科紹介 放射線治療科 師田 まどか

当科は、江東豊洲病院開設を機に放射線治療機器であるリニアックが新病院に導入されたとともに新設されました。

外照射機器としては、ELEKTA社製の最新放射線治療装置「ELEKTA Infinity」を導入・稼動致しました。放射線治療の先端技術としてのIMRT（強度変調放射線治療）や、回転系IMRTであるVMAT そしてSRT（定位放射線治療）を施行することが可能となっております。

2014年7月よりリニアックの稼動が開始し、現在のところ、乳がんや食道がん、直腸がんなどに対する根治的放射線治療や、転移性脳腫瘍・転移性骨腫瘍などの緩和照射、さらに前立腺がんに対するIMRTや肺がんに対する定位放射線治療などの高精度治療など、様々な癌に対して治療を行っております。



右から3人目 師田講師

当科所属の医師は現在一人ですが、診療放射線技師や看護師、事務と協力して、日々の診療を行っております。また、昭和大学病院放射線治療科と連携し、一つ一つの症例に関しカンファランスを行い、治療方針の検討を行っております。

当院で放射線治療を行い、放射線治療終了後は近隣の病院やクリニックでフォローアップも可能となっておりますので、放射線治療のみの依頼も直接お気軽に当科にお問い合わせください

がん治療の三本柱（手術・化学療法・放射線治療）のひとつとして、安心・安全で高精度な治療を患者さんに提供することを目標に、今後も診療に従事していきたいと考えております。

何卒よろしくお願いいたします。



最新放射線治療装置「ELEKTA Infinity」

◆部門紹介 感染管理室 九島 巳樹

感染制御チーム(ICT)から選ばれたメンバーがリアルタイムで医療関連感染の予防と対策のために業務を行っています。感染管理認定看護師(ICN)が中心となり、種々の感染症や薬剤耐性菌の発生について原因や状況の分析、感染拡大防止について検討し、現場にフィードバックをかけています。

院内感染対策委員会(ICC)やICTよりは小回りの利く、少数精鋭で実行力のある組織を目指しており、各部署の感染対策に興味を持ち、積極的に関わっている意識の高い職員が集まっています。

毎週金曜日のミーティングは今まさに病棟などで起こっている感染症の分析、対応について詳細に話し合いが行われています。

感染管理室長：九島巳樹医師(ICD)、副室長：横山登医師(ICD)、室員：大槻克文医師(ICD)、水野克己医師(ICD)、岡田壮令医師(ICD)、感染管理者：波木井恵子感染管理認定看護師(CNIC)、診療支援部門：大戸祐治薬剤師、新井祐司臨床検査技師、事務部門：秋田紀子管理課係長、馬場敦弥(管理課)の10名が所属しています。



前列右から2番目 九島教授

たかだ よしたか

編集後記 高田 義孝

夏本番の季節がやって来ました。今年は6月前半から厳しい暑さが続き、後半からは梅雨に入り気温が下がり、気温の変化で体調管理は出来ていますか？予想される猛暑に、水分、塩分を充分補給して熱中症を予防しましょう。あと、ビールの飲み過ぎにも注意！



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL03-6204-6000 (代表)

発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真

